

笠置山と土俵

▼「ぼくらの学校」

「相撲のはなし、読んだよ」「なら民俗通信」三〇〇回、9月4日付と、友人からメールがあつた。

「ところで、ぼくらの学校にも相撲の土俵があつたことを知っているかい」。彼とは幼稚園から高校までずっと同窓で、今も近所で理容店を営んでいる。彼が言うには、「土俵開き」に笠置山が来たらしい。もちろん二人が生まれ、ずっと前のことだ。

『飛鳥百年史』(奈良市立飛鳥小学校)に、「昭和十四年三月三日には、相撲大会を開き、當時大相撲の関脇であった郷土の人気力士等置山関を招き相撲道の普及をはかった」とある。昭和十四(一九三九)年といえば、筆者の父も同じ小学校の五年生くらいだったはず。

同じ年の等置山の記録によれば、「満州、北支、朝鮮」(当時)への二ヶ月間巡業を終えて九月、大安寺小学校と帶解小学校(現、奈良市)、松山小学校(現、宇陀市)、小川第一小学校(現、東吉野村)の土俵開きと講演に、さらに十月、地元郡山での「体育奨励、中学同期生」(前掲書)。

戦没将士追善相撲に招かれて帰郷している(「講演紀行」相撲裸記)博文館、一九四一年)。子どもと土俵

笠置山は、先の「講演紀行」で歓迎してくれた地元の有志に、①徳川中期以後から相撲が職業化して、ほとんど芸人と呼ばれるようになつていたこと②一般の人々は力士のやるとおりにしていたら体育になると

つていること③学童の体育と精神性修養を目的とする相撲は、力士の良い点と悪いところを見極めることが肝要であること――などを語っている。

①については、当時としては珍しく学業を続けながら、相撲人たちらんとした笠置山の矜持(きょうじ)でもあつたであろう。三田村鳶魚(えんぎょ)は、

戦時下教育と相撲

もともと相撲は営業的なものではなく、従つて商売人の相撲というのもなかつたのを社会情勢や幕府の政策によって徐々に営業化していくと述べている(「相撲の話」『江戸ばなし』其一、大東出版社)。

新田一郎もまた「相撲は、現代ではしばしば柔道・剣道・弓道などとともに「武道」のひどい数えられるが、そのなかで相撲だけが、早くから職業化・興業化の道をたどつたという異質性をもつてゐる」と言う(『相撲の歴史』講談社学術文庫)。

笠置山は、子どもと相撲を取るのが根っからの楽しみとしていたようだ。「朝六時頃起きて一人で裏の川に入る。校庭の横を丘の上に登つてゆくと畑の中に子供達の土俵があつた。……

そのことは、また笠置山勝一の別の著作にも見ることができる。「我が國技たる相撲道は……大東亞共榮圈確立の大目的のために……今や朝野に再認識され、専門相撲の興隆と相俟つて、学童、学生、青年層に勃然として興つて来た(『相撲範典』博文館野球界社、一九四二年)」。

冒頭にあげた『飛鳥百年史』にも、このようにある。「昭和十四年九月から毎月一回を興亞奉公」として、区民朝の会を開き、ラジオ体操を実施……。国民精神作興に伴い、武道や国技である相撲が体操料の中に取り入れられるようにな

する多くの男児たちを撮つた一葉の写真があり、「日本は今大好きな相撲をやつてゐる僕達もしつかり四つに組んでノ元気一ぱい進んで行かう」との文字が添えられている。「大きな相撲」が何を指すのかは言うまでもないが、本文からもう少し引いてみる。

「幼児より親しみ深いこの相撲、之を助長し、眞に敢闘精神を涵養することには、大日本帝国の世界上に雄飛する今日の刻下の急務である。……国民学校に於ける相撲指導は、我が国民の身心鍛錬の上に大きな役割をするものであると信ずる」(第一章「大東亞共榮圈と相撲道」)。本書が、ここで繰り返し言わんとしているのは、「国技」たる相撲は右のような条件に最も合ふものであるという一言に過ぎない。

そのことは、また笠置山勝一の別な著作にも見ることができる。「我が國技たる相撲道は……大東亞共榮圈確立の大目的のために……今や朝野に再認識され、専門相撲の興隆と相俟つて、学童、学生、青年層に勃然として興つて来た(『相撲範典』博文館野球界社、一九四二年)」。

▼むすび
「講演は三時に終り、又青年も交つて土俵で相撲をとる。小さい子供の無心に飛びついてくるのは、何んともいへない嬉しさで、日本を背負ふこれ等の子供に大きな期待をかける」とが出来る」と笠置山が言つていた、「ぼくらの学校」の土俵は、いつる消えてしまつたのだろうか。わが『飛鳥百年史』のどこをさがしても、見つからなかつた。

(にしむら・ひろみ詩人、奈良民俗文化研究所研究員)
『来年1月は休載、次回は2月5日付になります』

前稿「相撲のはなし」(「なら民俗通信」300回、9月4日付)で、「輝国」としたのは「照国」の誤りでした。訂正します。

り……本校でも相撲場の建設が進められ、これが児童の心身鍛錬の道場となつた」。常高等学校は、奈良市立飛鳥国民学校に改称される。「ちなみに、国民学校の目的は「皇國の道に則りて初等普通教育を施し、国民の基礎的鍛成を為す」(原文力ナ)ところにある」。昭和十七年四月、同校校長が臨時職員會で「戦時下教育の指標・県より指令説明」として伝達したなかに、以下のようない項が含まれているのも見落としがたい。「逞しき身体を練成し、敢闘雄飛の実践力を育成すること」(原文力ナ)。

常高等学校は、奈良市立飛鳥